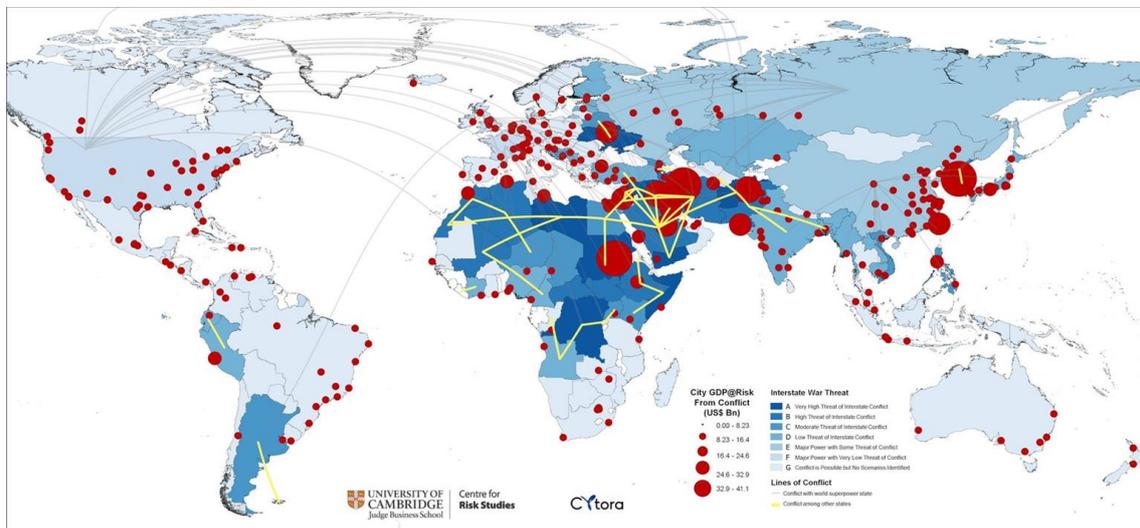


## Helga Zepp LaRouche

(The founder and the president of Schiller Institute)

「グローバルなプロジェクトの必要性ーニューシルクロードについて」

私は本日、ランドブリッジ、陸の橋、そしてシルクロードについて話をしたいと思えます。そして、この政策がなぜ緊急に必要なのかということをお話します。この地図は今日世界中で起こっているさまざまな危機をプロットしたものです。ここにある危機の数々をご覧いただきますと、第1次および第2次世界大戦前の状況は、これと比べるとたいしたことではないように見えます。



### 現在の世界の危機

つい先日、トルコがロシアの戦闘機を撃墜しました。これはあらかじめ決まった筋書きに沿っていること、つまりこのようなことが起きるのはホワイトハウスの暗黙の了解がなければ起こりえないとワシントンの情報筋も言っています。その後、オバマ大統領と NATO はトルコを支持する声明を発表しています。これによって示されるのはこの状態がいかに危険なものかということです。

ワシントンの新聞、PLITICO は、人々に対して次のように注意を呼び掛けています。こういったロシア、そしてアメリカの核兵器は、既に警報を受ければすぐに発射できる準備態勢にあるということ、また、今回のような戦闘機が撃墜された事件を受けた時には、軍部は1分間で大統領に対して選択肢を示し、そこではブリーフィングが30秒、そしてそれぞれの危機に対する選択肢が示され、それを受けて大統領は3分から6分の猶予の間で実際に核兵器を発射するかどうかの決断を下さなくてはならないということです。これを考えてみると、皆さんは眠れない夜を過ごされるのではないのでしょうか。

ロシアと中国は、はっきりとこう言っています。東欧におけるアメリカの欧州弾道ミサイル防衛システムは先制攻撃ドクトリンだとみなすと、あるいはプロンプト・グローバル・ストライク（即時地球規模攻撃）および中国に対するエアシーバトルも同様であると言っています。こういったものにより、多くの欧米の軍事専門家が警告しているように、冷戦の期間中より今の事態は危険であります。冷戦のさなかであっても、あるいはキューバ危機の最中であっても、今はない行動規範があった。今はそれが無い。アメリカの大統領とロシアの大統領の間の行動規範、そしてホットラインも存在していないのだと警鐘を鳴らしています。

また、こういったさまざまな対立は、アメリカがあくまでも一極支配の世界の維持にこだわるからだ。アジアが台頭を続ける中で、単純にアジアの台頭は多極世界を生み出しているにもかかわらず、デンプシー元米軍統合参謀本部長は、西側諸国が「ツキディデスのわなに陥ってはならない」と言っており、警鐘は聞き入れられていません。加えて、ウクライナの危機や、南シナ海の緊張、あるいは IS、ボコハラムによる悪魔的な野蛮行為、こういったもので危険の構図ができ上がってくるわけです。

同様に、実在する危機としては、太平洋の両側での金融システムの崩壊です。IMF も現在はもはや中央銀行はこういったことに対応する手だてが残っていないと言っています。既に量的緩和、ゼロ金利政策は取ってしまっているからです。こういったことをすべて見てみると、遅きに失する前に人類はこの道筋を変えることができるのか。われわれはこの道をそのまま突き進んでしまえば、カオスに陥ります。大き過ぎて潰せない（too-big-to-fail）銀行体系が一瞬で破綻し、金融システムが崩壊する。あるいは人類が抹殺されてしまう核戦争に至るのか。人類としてわれわれは十分な知能、道徳を持ち合わせているのだろうか。そしてこの原因を取り除けるのだろうかということが問われていることになります。

15 世紀のドイツの著名な哲学者ニコラウス・クーザヌスは、日本やロシアではよく知られていますが、中国ではあまり知られていません。ヨーロッパでは自然科学の祖といわれています。彼は次のように言っています。非常に複雑な問題があった場合、その解はさまざまな異質な部分的な解の寄せ集めでは解明できない。そして矛盾が解消されるであろうより高次の道理を見つけるべきだと。この方法を彼は *Coincidentia Oppositorum*（対立物の一致）と呼んでいます。つまり、対立するものが一致するのです。これはつまり、一つのことが、多くのことより高次に位置するということです。この手法こそを人類の進化の中で新しいパラダイムを定義するのに適用すべきです。

一般的に言って、人は自分たちの方法を変えなくてはいけないと認識するのは、自分たちが長年当然と考えていた前提が突然根底から崩れ落ちたときです。まさに今、世界中でそれが起きているのです。これが最も当てはまるのがドイツです。私はいつも言っていたのですが、ドイツはこれまでチーズの貯蔵庫のようであったと。つまり、空気が密閉され、チーズの臭いがここまで漂ってこないのだと言っていました。今や 150 万人の難民がドイツに押し寄せています。

そしてヨーロッパの統一に爆弾を投げかけています。もはやヨーロッパの結末もありま

せん。多くの国がこうした難民の受け入れを拒み始めています。しかしながら、こういった人々は飢餓や戦争から逃れている、中東から、シリアから、アフガニスタンから、イラクから逃れてきている人々だと、ヨーロッパの人々は現実を突然理解するのです。そして現実に目覚めるわけです。ドイツは戦争が差し迫っているということを気付くわけです。また、こういった危機の根本的な原因を深く再考するのです。つまり、アングロアメリカの嘘に基づいた中東における戦争、サウジアラビアのムジャヒディン、アル・ヌスラ、アルカイダ、そして今や IS に対する資金提供、それらのことによってドイツの石油原油関係者の間でも議論が起きています。

また、現実的な考え方として、何が間違っているのか、そして何がドイツの真の国益なのか。ドイツがただ単にワシントンやロンドンの言うことに従うのが正しいのか、それともアメリカとの同盟以外の道を模索すべきなのかという議論が起きています。

難民危機が始まって以来、ドイツでは、シリアにおけるロシアの行動も支持する動きが出ていますし、フランスもシフトしてきています。これは非常に重要な点です。また、直近のパリでのテロ攻撃のように、明らかに非常に野蛮な行動や犯罪が IS などによって行われれば、彼らを軍事的に破滅させなければなりません。これだけは明白です。彼らは交渉には応じません。しかしながら、この軍事的なオプションのみを取れば、より多くのテロを生み出すのみです。つまり、テロを一つつぶせば、50 の新しい組織が生まれると。つまり、付帯的損害を市民に対して与えるからです。

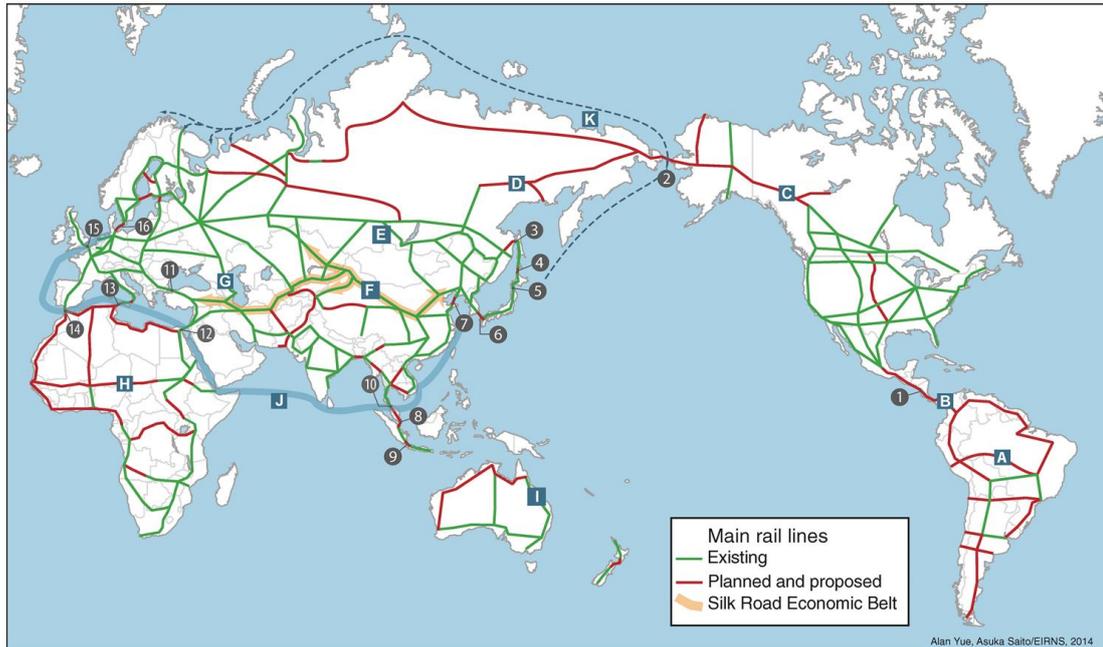
ですから、これに対してはほかの対応が必要なのです。中東とアフリカに対しての真の包括的な開発計画が必要です。若い人たち、特に若い男性に対して、彼らが今は持っていない未来への希望を与えなくてははいけない。希望はアメリカおいてもないのかもしれませんが、中東やアフリカでは若い人たちは全く希望がない状態です。彼らに対して未来を描かせなくてははいけない。家族を持つ、そして科学者だったり、医者だったり、建築家になりたいという夢を持たせることが必要です。それによって、ジハーディスト、聖戦士のリクルートがなくなる環境をつくり上げなくてははいけないのです。

### ワールドランドブリッジ構想 ～ 世界中のプロジェクト

この計画はシラー研究所が昨年出版した研究報告にあります。それは、新しいシルクロードが新しい世界のランドブリッジになるというものです。この地図上の黄色いラインが中国が現在造っている新シルクロード構想です。しかしながら、実はわれわれはこの計画を 25 年間練ってきました。

**The World Land-Bridge Network—Key Links and Corridors**

\*Committed, underway or completed.



**LINKS**

- ① \*Great Inter-Oceanic Canal, Nicaragua
- ② Bering Strait Tunnel
- ③ Sakhalin Island-Mainland (Russia) Connection
- ④ Sakhalin-Hokkaido Tunnel
- ⑤ \*Seikan Tunnel
- ⑥ Japan-Korea Undersea Tunnel
- ⑦ \*Bohai Tunnel

**LINKS**

- ⑧ Strait of Malacca Bridge
- ⑨ Sunda Strait Bridge
- ⑩ Isthmus of Kra Canal
- ⑪ \*Bosporus Strait Rail Tunnel
- ⑫ \*Suez Canal Expansion
- ⑬ Italy-Tunisia Link
- ⑭ Strait of Gibraltar Tunnel
- ⑮ \*English Channel Tunnel
- ⑯ \*Scandinavian-Continental Links

**CORRIDORS**

- A \*Peru-Brazil Transcontinental Railway
- B Darien Gap Inter-American Railway
- C Alaska-Canada-Lower 48 Rail Line
- D The Bering Strait Connector
- E Trans-Siberian Corridors
- F \*Silk Road Economic Belt
- G \*International North-South Transport Corridor

**LINKS**

- H \*Cross Africa Rail Lines
- I Australia Ring Railway
- J \*Maritime Silk Road
- K \*Northern Sea Route

Note: Geographical locations and corridors are shown schematically, with more than one railway combined as a single line in cases where major routes are parallel and in proximity. Maps within chapters of this report show greater detail.

ごらんのよう非常に大きな回廊が含まれています。橋、トンネルというようなものを造ろうというものです。それによって、アルゼンチンの南端からペルーを通り、アメリカ大陸、ベーリング海峡、ユーラシアのランドブリッジを通って、アフリカの最南端喜望峰までつなぐというものです。さらにインドからインドネシア、オーストラリアへという道筋もあります。これは高速鉄道も使われます。マグレブ（アフリカ北西部）などでは高速鉄道のシステムを使うことによって、船よりも早く行くことができます。このような生産性向上による時間短縮は、非常に重要なファクターです。

また、南西アジアの大半は爆撃され尽くし、シュワツルコフ将軍が当時言ったように、石器時代に逆戻りしています。あるいはもともと砂漠でした。われわれがこのワールドランドブリッジの一環として提案しているのは、この地域、中央アジア、コーカサスからペルシャ湾、そしてアフガニスタンから地中海までの一帯を一つの地域にとらえ、包括的にインフラプログラムを施工することです。例えば、飛行機で飛ばせば一見して分かるのですが、緑の草1本たりとも生えていません。

Railways in Southwest Asia, 2012



ですから、最初にやらなくてはいけないのは、まず砂漠化に対する宣戦布告です。例えば原子力エネルギーを平和的に利用することによって、大量の真水を海水の淡水化により作ることができます。また、帯水層を利用して大気中の水蒸気のイオン化をします。また、新しい降雨パターンを創出する。さらに、河川の流れを変える。そのようにして得た水をインフラ回廊へ入れ込むことができます。この地域が、20～30年後にドイツのようになりはしないという理由は何もないのです。ドイツは、水路、高速道路、高速鉄道網を整備させました。そのようにして産業と新しい都市を立地する条件を整えるのです。

南西アジア各国、中東各国では、こういったことを実現するための根本的な安全保障上の国益があります。ロシアは身近に IS の脅威にさらされています。というのも IS はチェチェンのテロ組織と結びついているからです。

また、ロシアの連邦麻薬取締庁長官のヴィクトル・イワノフ氏が繰り返し言っているのは、IS 台頭前のことですが、ロシアにとっての最大の安全保障上の問題は、アフガニスタンから陸路で運び込まれる麻薬の輸送網であると。その麻薬流入は 40 倍に増えていると言っています。

また、中国も国益が大きくかかっています。というのも、新疆のウイグル族が非常に密接に IS と結びついているのです。今日、まさに、予想外に、ウォールストリートジャーナルに「北京はシルクロードをテロに対するマーシャルプランとして売り込むことができるか」という見出しがあります。それはウォールストリートジャーナルから私への意外な応援となっています。その記事によると、西側は従来、新疆でのテロの頻発を中国政府に対

する一部の分派の犯行だと扱っていたのですが、実際にはウイグル族はISと密接につながっています。そして中国がテロを封じ込めるかもしれないという唯一の手段はシルクロードをこの地域に延伸することだと言っています。ワールドランドブリッジの計画は、日本にも、また世界のあらゆる地域にも、恩恵をもたらします。日本にとってワールドランドブリッジの大きなプロジェクトに参加するのは、まさに大久保利通や大隈重信らの明治維新の精神に立ち戻ることに他なりません。これはアレクサンダー・ハミルトン、フリードリヒ・リストに感化された政策の伝統です。つまり、社会の富の源は、原材料の保有、あるいは安く買って高く売るということではなく、労働力の創造性の開発です。その伝統は日本の戦後の通産省の方針に引き継がれています。現在、日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団はワールドランドブリッジ報告で取り上げたプロジェクトに出資しています。しかし、日本は必ずしもこれを推し進めていません。

そのプロジェクトの一つがクラ運河です。近年太平洋地域での貨物輸送の増加により、マラッカ海峡を通る貨物量が過剰になっています。そのためクラ運河プロジェクトは非常に重要になってきます。

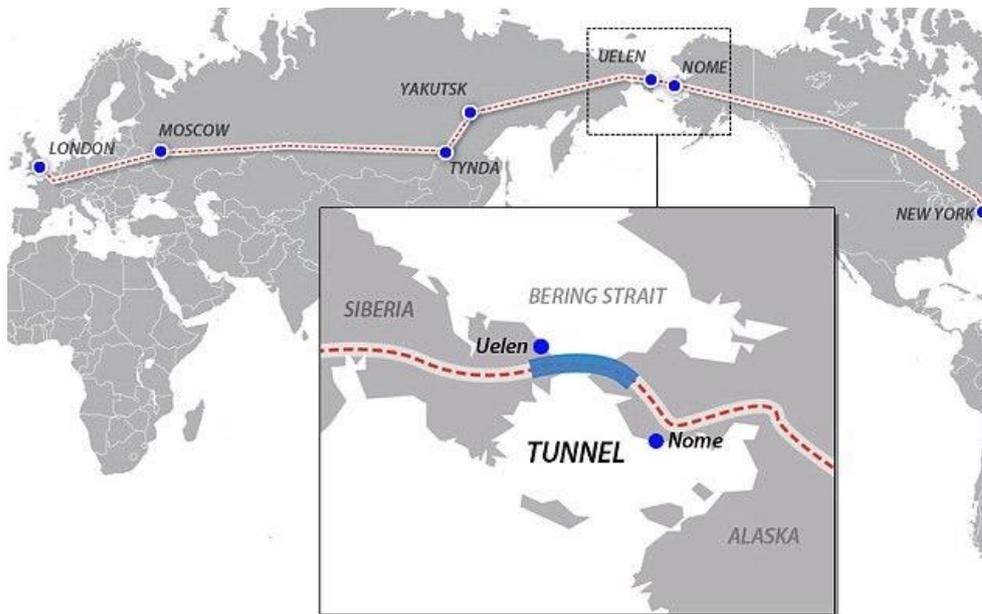


また、第2パナマ運河が中国によって今、ニカラグアで建設中です。また、メコンデルタの開発計画がありますが、持続可能な技術がまだ部分的にしか追及されていません。し

かしこれも急務であります。また、トランスアクア・プロジェクトはコンゴ川からチャド湖への水を引いて、サハラとその周辺地域を灌漑するという巨大なプロジェクトです。



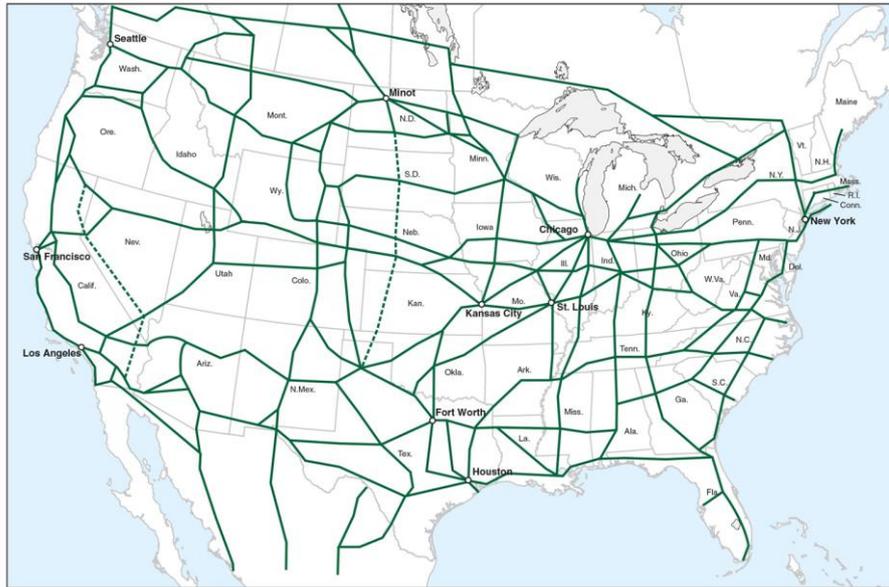
一方、ベーリング海峡のトンネルの建設ですけれども、これは現在ロシアのプーチン大統領が、アメリカが何と言おうと建設したい意向だと表明しています。また、最近の中露の協力体制、これは一帯一路、そして EU、ユーラシア経済連合の協業体制を見るにつけ、シベリア、極東ロシアにとっては現実味があるものといえます。



また、アメリカですけれども、ジェフ・スタインバーグ氏も詳しく述べられたとおり、中国は既に 1 万 8 万キロメートルに及ぶ高速鉄道網を建設しています。これはとても乗り

心地も良く、速い、素晴らしい技術です。アメリカはこの中国の高速鉄道建設と同時期にどれだけの高速鉄道網を建設したかという、それはゼロです。ですから、アメリカの復活のためには、5万キロメートルの高速鉄道網を建設することが急務なのです。

The Proposed 42,000-Mile-Long Network of National Electrified Rail



This route network of electrified intercity rail would transport freight and passengers, largely on existing (upgraded) rail lines. Alan Yue/EIRNS 2005

アメリカはまた、新しい科学都市をつくらなくてはなりません。アメリカでこのような議論をすると、人々がパンフレットを作成するときには、中国の新都市の写真を使うのです。こんなヒューストンのような醜い都市は嫌だというような声を聞きます。これはイタリアのルネサンス期の絵です。非常に完璧な美しい都市です。美しい建築物、こういった美しい都市をつくるべきだと私は考えます。



一方、ウクライナ、これはもう一つの問題の地域ですけれども、ヨーロッパとユーラシア経済連合 (Eurasian Economic Union) の協調と、(中国の) 一帯一路の方針の下、インフラ回廊が建設されれば、ウクライナがより大きな経済開発の構想の中に取り込まれ、崩壊の危機から免れ、繁栄がウクライナにもたらされます。それによって現在の危機も解消

されるでしょう。

ヨーロッパ全域においては、非常に大きなインフラ建設の積み残しがあります。ドイツでは 2 兆ユーロ分のインフラ建設の債務残高があります。2012 年にシラー研究所は既に、南欧そして地中海およびアフリカの新経済計画を提案しています。これはギリシャ、スペイン、イタリアなどを瀕死に至らしめている現在の非常に厳しいトロイカ（EU IMF ECB）の緊縮政策の代替案です。

また、難民問題の危機が高まる中、こういった開発計画がきちんと協議をされれば、新しい希望を人々にもたらすゲームチェンジャーとなるでしょう。

アフリカは、数々の戦争、そして IMF やさまざまなマネタリスト機関の政策により経済発展ができず、今やこの地域は地上の地獄の様相を呈しています。故国とは呼べません。そのため人々は逃げ去ろうとしています。国連人権委員会（UN Human Rights Commission）によると 6000 万人が難民として国を逃げ出しており、状況が変わらなければさらに多くの人々が難民になってしまうということです。このスライドは、鉄道網あるいは水路網の計画です。こういったことが整備されれば状況は一変します。



### ワールドランドブリッジの理念

さて、21 世紀の平和的秩序の堅固な基盤としてのワールドランドブリッジについてですが、それには全く異なるパラダイムが必要です。地政学の正当性を排除しなくてはなりません。つまり、ひとつの国あるいは複数の国で構成されるグループが正当性をもって自分

たちの国益を他国に対して追求できる、そして今現実に行われている未然的な先制攻撃が正当化されるという主張は、ばかげているのみならず機能もしない犯罪なのです。ニュルンベルグ裁判に基づけば、これは犯罪であり訴追されるべきものなのです。

人類が現在の危機を生き残るための唯一の方法は、人類共通の利益を判断基準として明確に定義し、そのために質的な飛躍をすることです。つまり、人類がいかにあるべきか。次の大統領選挙のときではなく、今から100年後、あるいは今から1000年後にどうあるべきか。これこそがわれわれの意思決定の指針であるべきなのです。

ワールドランドブリッジは全世界の陸地のインフラを完成させるのみならず、人類発展の次の段階を定義します。つまり、宇宙へのインフラ開発につながるものです。宇宙は人類発展の次の段階なのです。最善のケースとしては、国連総会が緊急に開かれ次のような議論がされることです。世界は壁に向かってクラッシュしつつある。こういった状況のパラダイムを変えよう。ワールドランドブリッジを議題として取り上げようと。議論の場はG20のサミット首脳会議や、あるいは基本的にワールドランドブリッジを切望している政府や産業界、科学者や文化人のリーダーたちの会議というのが理想的です。

ワールドランドブリッジの理念は、歴史的あるいは民族的な抗争を消失させ中立化させるという、より高次元の理性を確立することです。例えば中国と日本の対立を見たときに過去の忌まわしい歴史を克服することは無理なのではないかと思うかもしれませんが。しかしながら、日本と中国のみならず、他の国々、インド、ロシア、東南アジア、ヨーロッパ諸国なども開発計画に組み入れ和平へ向かっていく。その和平がお互いの利益を生み、ウインウインの状況になり、争いは少なくなり、さらには消えていくでしょう。

また、この状況はもちろん三十年戦争のときとは大きく違いますけれども、三十年戦争の際、実質150年間の宗教的な交戦状態を続けてきて、初めて和平のテーブルに着きました。これ以上戦争を続けてしまえば、この勝利を味わう者は誰一人残っていなくなると気付いたからです。そしてウエストファリア条約がこの交渉の産物として結ばれたわけです。これは、平和は他者の利益を考慮しなければ維持できない、外交政策は復讐ではなく愛に基づかなくてはならない、という考えでもって初めて取り交わされたものです。この条約こそが国際法の礎となり、国連憲章の基となりました。残念ながら、こういった国際法に対する敬意はほぼ消えてしまっています。また、国連安全保障理事会もリビアに対する対応を誤った以降は機能しなくなってしまっています。しかしながら、こういった国際法もさらなる発展がなされていかなくてははいけません。原則が合意され、そして前文として人類の共通の目的が基となり、いかなる国の国益も全人類の現在、未来の利益と一致しなければ正当化されないという原則に基づくべきです。

また、国連憲章の原則も維持されるべきですが、異なる文化や習慣におけるより高次の法を考慮すべきです。例えばヨーロッパでは自然法があります。これは人々が従わなくてはならない自然の摂理です。また、アジアでは天の摂理という考え方があります。つまり、人類全体が物理的な宇宙において唯一生き残れる道は、地球上での政治的なあるいは経済的な慣行が万有の法則と一致していなければならないということです。これは形而上の表現のみならず、自然科学で実証されたことです。われわれ人類は単なる動物ではないとい

う事実から始めなくてははいけません。つまり、過去の存在様態にとどまることなく、われわれの創造性は、繰り返し宇宙の深い原則を発見することができます。そしてこういった原則を適用し、生産をすることによって、自分たちの生活水準や寿命などがより向上していきます。

### 宇宙における人類の未来へ向けて

ヨハネス・ケプラーが重力そして惑星運行の統一法則を発見したときに、彼は人類がもはや地球に縛られることなく、太陽系の一部であるという、全く異なる種になる原則を発見したのです。

アインシュタインが一般相対性理論を発見したことは、人間の宇宙に対する探索の基礎を築いたことを意味しています。地球の歴史から明らかなのは、太陽系の惑星と銀河の関係が決定的にお互いに影響を持っているということ、そしてこれがさまざまな気候変動のサイクルや、生命進化のプロセスの変異に影響をおよぼしているということです。しかしながら、われわれは銀河系の法則をまだ発見していません。かつてケプラーが惑星運行の太陽系の法則を発見したような、銀河系における法則はまだ発見できていないのです。

それでは、人類の創造性が宇宙の法則の不可欠な一部であるということは何を意味するのでしょうか。われわれは外側から見ている観察者ではないのです。人類の創造性は宇宙の法則の一部に他ならないのです。したがって、次の段階として、宇宙で、そして銀河系、さらにはそのかなたにおいて、さまざまな国の一流の科学者が協業し、宇宙の法則を新しい科学のフロンティアとして発見していかなくてはなりません。人類の力はまだまだ知られていない発見すべきものがたくさんあるのです。こういった将来の発見は未知のものなのです。例えば、月に存在するヘリウム3を採掘し、地球上のFusion Economy使用するというアイデアはケプラーの時代には全く知られていないことでした。地球は閉ざされた体系ではありません。地球上の生命は太陽系の銀河との相互作用の法則に基づいています。ですから、さまざまな何十億という宇宙に存在する銀河の統一法則を発見することがわれわれの使命として残されています。

また、われわれが生きる意味というのは、次の発見への道筋を見出すために人類の能力を進歩させ、それによって人類が何百万年、何億年後も生存し続けることを可能にすることなのです。われわれは今まだその原理の影、一部しか発見できていません。ですから、実体経済と本物の科学に立ち戻り、マネタリズムを排除することが必要です。さまざまな産業革命の理論的な土台となった歴史的知見を復活させなくてははいけません。これらの知見はさまざまな教科書から全く排除されてしまっています。アルゴリズムが生活のあらゆる局面を取り込んでいますが、それは過去の出来事を投影したものでしかなく、創造性や新たな発見は包含されていないのです。実際にすべての産業革命は、アメリカにおいて、そしてドイツ、日本、ロシア、あるいは最近では中国の経済の奇跡的發展においても、物質的な経済の原則に基づいています。その原則はゴッドフリード・ライプニッツやフリードリッヒ・リストが作り上げ、アメリカの経済システムは、マシュー・ケーリー、ヘン

リー・C・ケーリー、そしてセルゲイ・ヴィッテ伯爵などが築いたものです。

日本の明治維新は非常に短い期間で日本を世界の経済大国に変えていきました。これはアレクサンダー・ハミルトンそしてフリードリヒ・リストの経済理論のおかげです。また、リンカーンの経済顧問であったヘンリー・ケーリーの非常に近い協業者であったエラスムス・スミスは、ユリシーズ・グラント政権によって、明治政権の公式な経済アドバイザーとして派遣されました。

あまり知られていませんが、歴史の記録で証明されるように、ドイツが封建国家から経済大国に姿を変えることができたのはフリードリヒ・リストによることと、ビスマルクがヘンリー・C・ケーリーの経済モデルに出会ったこと、これらによることに他ならないのです。このときには当時ドイツの産業連盟のトップをしていたヴィルヘルム・フォン・カルドフの仲介によるものでした。それにより、ビスマルクは自由経済理論の支持者から、リストとケーリーの保護主義に転換をした。これがなければ、ドイツは工業国家にならなかったかもしれません。

過去 30 年にわたる中国の奇跡の経済発展、そして新シルクロード、AIIB、新開発銀行 (New Development Bank (BRICS Bank))、シルクロードマリタイム基金、これらはすべて前述した伝統を引き継いでいます。

また、上海で開催された 2013 年の第 5 回世界中国研究学会、あるいはドイツのロイトリンゲンで開催された 2014 年のリスト学会などでも、中国で最も人気がある経済学者はアダム・スミスでなくて、ドイツのフリードリヒ・リストだという主張が強調されています。リストは労働と産業による生産力の発展こそが統計上の富よりも大切だと主張しました。恐らく今日の資産主導の経済を見たら、彼は強烈に批判をするでしょう。彼は 1937 年にフランス科学アカデミーに提出した研究論文の中で、「空間と時間の経済」と呼ばれる輸送システムについてのビジョンを打ち出しています。これは今日でもこのワールドランドブリッジに当てはまるアイデアを包含しています。

これはリストが提案したドイツの鉄道網、ヨーロッパの鉄道網の地図です。



この中でリストが言っていたのは、こういった輸送と通信システムを継続して完璧なものへ仕上げていくことが、人類の進歩の前提条件となり、すべての人間が自然から与えられた潜在力を開花させ得るということです。さまざまなアイデアが交換され、さまざまな分野で協業が行われ、また、知見がさまざまな分野でより大きな進歩を遂げ、科学、文化がインスピレーションを高め、拡散するだろうと言っています。また、今のジェット機時代を予見するかのように、人々がある場所から別の場所により容易に移動できるようになれば、時間がより節約され、空間は縮められ、人々の力がより進化し効率化する。そして自然の物質的な豊かさを人々の目的のために活用する力が増すのだと言っています。

彼が言った「空間と時間の経済」の特性はさまざまな国の富に示されています。たとえ自国の自然条件がこういった開発には不利だとしても、先進的な輸送と通信システムが開発されています。高度なスピードと定刻性、そして高いコスト効率による輸送は、精神的にも物理的にも生産力向上を促進するでしょう。また、さまざまな国が一つの人類という名の下、惑星共和国として団結する、そして「人類の経済」をつくるということを彼は提唱したのです。このワールドランドブリッジの実現は人類の共通の目的から進められ、近い将来可能となるでしょう。しかし、世界の異なる文化間の高次元での対話が伴っていないければなりません。アジアの多くの国にとっては儒教の復活を意味しますし、インドにとってはグプタ朝、あるいはインドのルネサンスを意味します。ロシアにとってはプーシキン、そしてベルナドスキーの時代、イタリアにとってはイタリアのルネサンスの時代、ドイツにとっては古典主義の音楽や詩の時代を意味します。

他の文化の最も豊かだった時代を学ぶこと、これによって尊敬が生まれ、愛が生まれま

す。こういった形によってのみ、唯一人類はその能力をフルに発揮し、われわれの宇宙における不滅の種となれるのだと思います。このビジョンを実現するには、われわれは人類に対しての熱烈な愛によって導かれて今日生きていかなければなりません。

ご清聴ありがとうございました。

(了)